

企画展 移民と和歌山 2017

和歌山からブラジルへ 100年の時を経て

1908（明治41）年6月18日、781人の契約移民を乗せた笠戸丸がサントスに入港し、日本からブラジルへの集団移住がはじまりました。2008年、日本とブラジルの交流は100周年を迎えています。和歌山県からも多くの人々が、ブラジルで新たな生活を切り開こうという決意を持って渡航しました。初期移民の時代から100年の時を経て、本年10月、サンパウロでは和歌山ブラジル県人会が主催して100周年を祝う式典が開催されます。

この記念すべき年、紀州経済史文化史研究所では、企画展「移民と和歌山2017ー和歌山からブラジルへ100年の時を超えてー」を開催し、ブラジル移住者の足跡をたどり、これまでの100年から現在へ、そして未来へつながる100年を考えることをテーマとします。

鯉川筋（神戸市）に咲くイッペ（ブラジルの国花）
かつて多くのブラジル移住者が神戸から渡航した。

【日時】平成29年7月14日（金）～8月31日（木）

開館時間：10:30～16:00 閉館日：土日祝日および図書館閉館日に準ずる

◎7月16日（日）10:00～15:00は開館（オープンキャンパス）

◎8月14日（月）～8月18日（金）は閉館

【会場】和歌山大学 紀州経済史文化史研究所展示室（図書館3階）

【内容】パネルを中心として、ブラジル移住者の関連資料や書籍などを展示

主催：地域活性化総合センター 紀州経済史文化史研究所

共催：（公財）和歌山県国際交流協会 / 和歌山県中南米交流協会

後援：和歌山県

協力：JICA 横浜 海外移住資料館 / 和歌山市民図書館

関連イベント：巡回展、ミュージアムトークなどについては、HPにて順次ご案内します。